

# 令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名

秦野市立本町小学校

## 1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語では「読むこと」に関する問いについて、物語上の登場人物の行動や気持ち、登場人物の相互関係について、叙述を基に捉えることができている。また、「話すこと・聞くこと」に関する問いについて、要旨の中心をとらえようという姿勢が身に付いている。	(1) 漢字を文の中で正しく使うことに苦手な傾向が見られました。また、漢字や仮名の大きさ、配列などに注意して書く問題についても苦手な傾向が見られ、「知識・技能」の観点において課題が見られました。
(2) 算数の「数と計算」の領域では、被乗数に空位のある整数の乗法など、正しく計算処理することができています。「変化と関係」の領域では、百分率で表された割合を分数で表したり、百分率で表された割合と基準量から比較量を求めたりすることは、おおむねできます。	(2) 「変化と関係」の領域では、伴って変化する2つの数量関係を説明する問題に課題が見られます。「図形」の領域では、図形を構成する要素に着目して図形の意味や性質を理解したり、プログラミング的思考を活用したりする問題において全体的に苦手な傾向があります。
(3) 理科では、A区分「エネルギー・粒子」の領域よりB区分「生命・地球」の領域の方が理解できています。特に、「生命」の領域では、問題を解決するまでの道筋を構想し、根拠のある予想から自分の考えをもつことができていることがうかがえます。	(3) 「粒子」の領域では、実験の方法や道具の使用方法についておおむね理解できているものの、実験器具等の名称の理解に課題が見られました。子どもたちの生活と結び付けた学習のあり方について考えていく必要を感じました。

## 2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 国語では、仲間との話し合いや学び合いの活動の充実に力を入れています。自分なりに思考する力、仲間の意見を元に考える力や自分の思いを表現していく力の育成に引き続き努めます。一方でそういった話し合いや学び合いを知識・技能の獲得にまで結び付け、有機化できていないことは依然として課題です。また、反復練習を中心に理解力の向上や定着に努めてきましたが、成果として十分という結果とはいえない状況となっています。
(2) 今回の結果では、伴って変化する2つの量やその関係について、正しく捉え、答えを求めることができる児童の割合が以前よりも増えました。これは、日々の学習の中で、数量関係に着目するよう意識づけ、反復練習に励んできた成果だと言えます。しかし、計算方法や答えの導き方について説明することは、引き続き苦手な傾向があることが分かりました。今後は、「どうしてそうなるのか」「どのように求めたのか」を仲間と伝え合ったり、図などに書き表して表現したりする機会をさらに増やしていきたいと思えます。
(3) 質問紙では、「自分によいところがある」や「将来の夢や目標を持っている」「いじめはいけないこと」と考え、前向きに目標をもって、仲間を大切にしながら生活していることがわかります。これは、校内研究(体育科)を柱として、自己肯定感を高めるための指導の在り方を追究してきた取組の成果と言えます。今後も子どもたちの考えや想いを大切に、どの教科においても問題解決学習を大切にしながら授業づくりをしていきたいと考えています。

## 3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 「知識・技能」の観点においては時間が許す限りの反復練習を今後一層充実させていきたいと思えます。また、反復練習だけでなく、漢字や熟語を文章中や会話の中で使用する場面を取り扱い、実際の使用の中で失敗や成功の経験を積む機会をより充実させていきたいと思えます。限られた時間の中でより良い成果を上げることができるよう、教科を横断して言語活動に一層取り組むたいと思えます。本校が力を入れてきた学び合いの場を漢字習熟や言語理解などについても充実させ、良いところを広げていけるよう指導力向上に努めます。
(2) 今回の調査では、「問題解決の方法」を問われたり、筋道を立てて考えたりする力を問う問題が多くありました。中でも、図形とプログラミング的思考を融合させた問題では、単に問題解決に必要な角度や多角形を求めるだけではなく、「条件に合わせて必要なプログラムを入力する」といった発展的かつ応用的な問いがありました。今後は、順序立てて考えたり、繰り返したりすることのよさやその活用事例などを紹介するとともに、算数での言語活動にもより一層、力を入れて取り組んでいきたいと思えます。
(3) 今後も校内研究を中心に、様々な体験活動や地域・社会の人と関わり合う機会を意図的に設け、達成感や成就感を味わえるような学習活動に取り組んでいきます。学習活動の中で、児童自らが学習問題を設定し、協働しながら解決を図っていくような学習展開を進めていきたいと思えます。また質問紙の結果から、学習中に友だちとの意見交換をしたりまとめや発表で活用したりする機会は少ないことが分かりましたので Society5.0時代に向けて、ICT機器の活用機会の充実も図っていききたいと思えます。同時に、情報モラル教育にも力を入れ、情報機器の望ましい扱い方や危うい部分についても理解を深めさせていきたいです。

## 4 家庭・地域の方へのメッセージ

本校では、記述解答に難しさを感じている児童が多く、解答しなかったり、途中で書くのを諦めたりしている割合が国や県の割合よりも高いことが分かりました。記述回答に関しては、授業中のみならず、自主学習や学習のふりかえり場面でも力を伸ばしていけるようにしていきたいと考えています。また、途中で諦めないでやり遂げる粘り強さも、様々な学習や体験を通しての伸ばしていけるよう、地域・ご家庭と連携しながら教育活動を行っていききたいと考えています。
--